

予防鍼灸研究会（SGPAM）

第18回定例会抄録

テーマ：TRP チャンネルが拓く東西
医療

2024年6月30日

目次

小児アトピー性皮膚炎の症例.....	2
メカノレセプターへの炎刺激が姿勢制御機能に与える影響.....	4
炎と温度感受性 TRP チャンネル.....	6

小児アトピー性皮膚炎の症例

越石鍼灸院 院長 越石まつ江

【目的】

小児アトピー性皮膚炎に対して主に糸状灸を行い、症状の改善がみられたので2症例を報告する。

【症例】

症例①3歳女児。X年3月末に皮膚症状が出現。近位小児科にてアトピー性皮膚炎と診断。その後、皮膚科を受診。ステロイド外用療法を試みるが寛解と増悪を繰り返し、効果がなかったために中断。4月末より増悪傾向を示し、5月14日に祖母の紹介にて当院に来院。初診時現症：顔面・頸部・肘窩・手首・単径部・膝窩を中心に紅斑・湿疹が播種状に分布し、掻破痕と滲出液がみられた。症例②7歳男児、小学2年生。X-4年N病院にてアトピー性皮膚炎と診断。ステロイド外用薬は使用せず、市販の軟膏を保湿剤として塗っていた。X年4月28日に父の紹介にて来院。初診時現症：頸部・肘窩・膝窩を中心に紅斑・湿疹が分布。ところどころに掻破痕と滲出液が認められた。

【治療・経過】

皮膚病変部の消炎を目的に、局所に糸状灸を1分消しにて行った。初期は週3~4回とし、経過とともに頻度を減らした。頻回の入浴、保湿剤の塗布を指導。症例①初診時は接触鍼と糸状灸1個から始め、診療回数とともに個数を増やした。治療が安定した6診目より背部の紅斑が減少。8診目より顔面部の皮疹も軽減。11診目までには背部・顔面部の皮膚が正常化。X年5月末にK病院を受診し、血液検査にてネコ皮膚・ヤケヒョウダニ陽性。ステロイド外用療法、生活環境整備を指導され灸施術と併用。その後、全身的に改善傾向を示し、52診目には膝窩に少々赤みが残る程度となり、X年12月24日(53診目)に改善終了とした。その後、X+4年5月の時点で再発していない。症例②皮膚症状は施術直後から赤みが軽減し、浸出液の減少がみられた。その後、寛解と増悪を繰り返しながら徐々に寛解し、X+1年7月23日までに計247回施術を行い改善終了とした。その約5年後、X+6年5月中旬頃、頭垢が出て化膿するようになり、30日に顔面部に発赤・湿疹が出現。6月2日に再来院となる。6月11日までに計4回施術を行い改善した。

【考察】

糸状灸による灸施術は、直後から皮膚の炎症を軽減させること、衛生指導を含めて長期間継続することで徐々に皮膚のバリア機能やアレルギー体質を改善させることが考えられた。また症例②再発から、発症初期に行うと改善が早いことが推測された。

(本文 968 文字)

略歴

日本鍼灸理療専門学校 卒業

故安藤譲一先生に師事（紫雲膏灸習得）

昭和 57 東京都練馬区に開業

平成 11 全日本鍼灸学会認定

平成 27 モグサアフリカ主催 越石灸セミナー（i n イギリス）講師

平成 28 W F A S（国際鍼灸連合会学術大会）実技セッション講師

DVD「越石式灸テクニック」出演

メカノレセプターへの灸刺激が姿勢制御機能に与える影響

新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 鍼灸健康学科長 粕谷大智

【目的】

足底の体性感覚はバランス機能に重要な役割を果たしている。足底の温熱刺激は神経伝達速度の増加による感覚入力の改善により姿勢制御機能が向上するとの報告は多い。今回、セルフケアも可能な台座灸による温熱刺激の姿勢制御機能について検討した。

【対象と方法】

対象は狭窄症で術後の足底部の感覚異常による歩行困難、ふらつきを主訴とする 13 例（平均 71.1 歳、平均術後 1 年）。評価は①開眼片足立位時間（OLS）、②Timed up & Go test（TUG）、③Functional Reach（FR）、④総合重心動揺解析システム重心動揺検査（ANIMA 社）にて姿勢制御機能評価を行い、足底部温熱刺激前と治療直後と治療 10 回目に評価した。台座灸（皮膚体感温度 43～45℃）を、足底部のメカノレセプターが多く存在する母趾外転筋、母趾内転筋、踵骨内側に 3 か所 2 壮を行い、自宅でも毎日 1 回行った。

【結果】

足底の灸刺激直後「地に足付けて歩ける感じ」「しびれが軽くなり歩きやすい」と言った感想が寄せられた。治療 10 回時で介入前と比べ、OLS と FR が有意に改善を認めた。重心動揺検査は初診時、患側の下肢に過重が出来ず、健側の方に過重がかかり左右差を認める症例が多い中、介入により左右差の程度は軽減した。

【考察及び結語】

今回、足底の固有感覚受容器（メカノレセプター）に対する灸刺激を継続的に介入した際の姿勢制御機能の変化について検討した。その結果、しびれの軽減と共にバランス能力の向上を認めた。また重心動揺検査におけるバランス機能も改善を認めた。

足底部の灸刺激は体性感覚刺激により、受容器の感受性を高めバランス機能を変化させる可能性が示唆された。

（本文 711 文字）

略歴

国際鍼灸専門学校卒

筑波大学理療科教員養成施設 臨床研修生修了

人間総合科学大学大学院博士後期課程修了 心身健康科学博士

1987 年 東京大学医学部附属病院 内科物理療法学教室（物療内科）に入職、アレルギー・リウマチ内科を経て、2022 年 3 月までリハビリテーション部主任。

2023 年～新潟医療福祉大学リハビリテーション学部鍼灸健康学科学科長・教授

【所属学会・研究】

日本心身健康科学会理事、全日本鍼灸学会監事、日本東洋医学会代議員、日本腰痛学会、日本リウマチ学会、日本顔面神経学会認定指導士、日本リハビリテーション医学会
特にリウマチ、腰下肢痛に対して数多くの研究成果があり論文を発表している。

【著書・出演】

『関節リウマチ 鍼灸臨床最新科学』（医歯薬出版）

『ひざ痛はお灸で消える』（光文社）

『最強のボディメンテナンス』（徳間書店）

『東洋医学 ホントのチカラ』、『ガッテン!』（NHK）

灸と温度感受性 TRP チャネル

名古屋市立大学 なごや先端研究開発センター 温度生物学研究室 特任教授 富永真琴

【背景】

1997年にカプサイシンの受容体である Transient Receptor Potential (TRP) V1 が発見されてから、多くの類縁体が発見され、温度に関わる生命現象の多くに温度感受性 TRP チャネルが関与することが明らかになってきました。TRPV1 とメントールの受容体である TRPM8 の発見に対して、2021年のノーベル生理学医学賞がアメリカカリフォルニア大学サンフランシスコ校の David Julius 教授に授与されました。さらに、TRPV1 やワサビの受容体である TRPA1 は疼痛現象に深く関わっており、新たな鎮痛剤のターゲットとして多くの薬理学研究が続けられていますが、現在まで有効な鎮痛剤の応用には至っていません。最近、蛋白質の構造が明らかになってきたことから、今後薬剤開発が進むことが期待されています。灸は皮膚への温度刺激があることから、温度感受性 TRP チャネルが関与することが推定されています。

【結果】

皮膚の表皮細胞には2つの温度感受性 TRP チャネルの TRPV3, TRPV4 が発現しています。これらはいずれも体温近傍の温かい温度で活性化することが知られています。このうち、TRPV3 が表皮細胞の損傷治癒や温かい温度の感知に関わっていることをご紹介します。

【結論】

TRPV3 の活性化は灸治療の効果のメカニズムの一つかもしれません。
(本文 577 文字)

【引用文献】

温度感受性 TRP チャネル

<http://tenaca-nips-2016.kenkyuukai.jp/images/sys%5Cinformation%5C20161004145432-C9A0307CDC5BFFBE368042C37301506118242A368CDD5986EDA4A983ED7B8D92.pdf>

略歴

1984年 愛媛大学医学部医学科卒業

1992年 京都大学大学院医学研究科博士課程 修了

1993年 岡崎国立共同研究機構 生理学研究所 助手

1996年 University of California, San Francisco 博士研究員

1999 年 筑波大学 講師

2000 年 三重大学医学部 教授（生理学第一講座）

2004 年 自然科学研究機構 生理学研究所 教授

2024 年 名古屋市立大学 なごや先端研究開発センター 特任教授